

議事概要

藤沢市政策会議を次のとおり開催した。

会議名	令和5年度第15回政策会議
開催日	2024年(令和6年)1月18日(木) 8:35~8:55
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	鈴木市長、和田副市長、宮治副市長、岩本教育長 (政策会議委員) 総務部長、企画政策部長、財務部長、防災安全部長、市民自治部長、生涯学習部長、福祉部長、健康医療部長、保健所長、子ども青少年部長、環境部長、経済部長、計画建築部長、都市整備部長、道路河川部長、下水道部長、市民病院事務局長、消防局長、教育部長、議会事務局長、監査事務局長、選挙管理委員会事務局長、農業委員会事務局長
議 事	(1) 議題(審議事項) 1 藤沢駅周辺地区再整備事業の進捗状況について(都市整備部) (2) 報告・情報提供等 ア 保寧市公式訪問団歓迎セレモニーについて(企画政策部) イ 令和6年度能登半島地震の発生に伴う被災地支援について(防災安全部) ウ 令和6年度能登半島地震の発生に伴う緊急消防援助隊の出動について(消防局)
内 容	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事 (1) 議題(審議事項) 1 藤沢駅周辺地区再整備事業の進捗状況について □都市整備部長から、資料1~2に基づき概要説明が行われた。 《内容》 令和6年2月2日に開催が予定されている藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会にて「藤沢駅周辺地区再整備事業の進捗状況について」を報告することに先立ち政策会議に付議するもの。 《主な意見等》 なし。 《結果》 了承。 (2) 報告・情報提供等 ア 保寧市公式訪問団歓迎セレモニーについて □企画政策部長から、資料に基づき概要説明が行われた。 《内容》

第14回湘南藤沢市民マラソン2024にあわせて、姉妹都市保寧市から市長を団長とする公式訪問団が来藤するので、市長表敬前の歓迎セレモニーへの職員の協力を依頼するもの。

《主な意見等》

なし。

イ 令和6年能登半島地震の発生に伴う被災地支援について

防災安全部長から、資料に基づき概要説明が行われた。

《内容》

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震による災害に伴い、藤沢市は、藤沢市地域防災計画各論Ⅰ第8部各章に定める被災地支援対策を基本として被災地支援を実施していることから、その内容を報告するもの。

《主な意見等》

なし。

ウ 令和6年能登半島地震に伴う緊急消防援助隊の出動について

消防局長からの概要説明については省略。

《内容》

能登半島地震に伴い、本市消防局から緊急消防援助隊が出動し、災害現場で救助活動を実施していることから、その内容を情報提供するもの。

《主な意見等》

なし。

4 その他

○能登半島地震について、本市も今後保健師を派遣していくが、現在川崎市と横浜市のチームが被災地支援に行っている。現地の保健師や保健関係のセンター職員は疲労が蓄積している。実際の避難所等の保健活動では雪による影響で担当地区を回れないこともある。避難所はコロナウイルス感染症、インフルエンザが増えているが、隔離や周囲を気にして検査を受けない人もいる。ガソリンの給油については一時期20リッターまでとの情報があったが、今のところは心配なく給油できている。派遣職員が滞在しているホテルは、断水でトイレが使用できない状況である。電気は1月12日から使用できるようになり暖房が稼働するようになった。ホテルは従業員も全くいないため、ベッドに寝袋を敷いて対応している。通信環境は、携帯は一部キャリアを除いて繋がる状況。金沢から内陸部への移動に関しては、当初6時間程度かかっていたが、現在は4時間程度で

行けるようになった情報もあり、今後、道路の復旧も進み短縮が予測される。

○能登半島地震の情報として「のと里山海道」の一部が通行可能となったため、空港へのアクセスが良くなったとのことである。

○能登半島地震による建物の応急危険度判定に係る職員の派遣については、2名登録している。現在神奈川県と横浜市、川崎市の職員が被災地で判定を行っているが、次の要請があれば、藤沢市が出動する。現地の状況としては、熊本地震や東日本大震災のときよりも危険と判定される割合は非常に高い状況である。市営住宅の一時提供については古里住宅7戸をホームページでご案内しているが、まだ応募等はない状況である。

○能登半島地震の職員の派遣について、今回本市からの派遣は1人であるが1自治体から複数で行った方が、職員は心強いと思うが、県にお願いすることはできないか。

⇒複数の職員で構成し派遣した方が、効率的にも良いものと捉えている。今回は県の方針で22市町から各1名ずつの要請であった。政令市を除くと藤沢市が最大規模になるため、規模に応じた派遣でも良いと考えている。今後、機会があれば県へ提案していく。

5 閉会